



一緒に、生きる。

01

* News Letter *

結晶母

Terra Renaissance

「生きるチカラ」に 生かされて。



「あなたは私にとって子どものよう、
助けを差し伸べてくれて、ありがとう」
外からきた私たちを、家族に例えてもらい、
受け入れてもらったような気がして、
嬉しかった



彼女たちは、相互扶助のグループをつくり暮らしていた
誰かと一緒だから、人は生きていけるのかもしれない (写真右・鈴鹿)



たとえ数百円の支援であっても、この支援は、
彼女たちにとって重要な意味があると思った

支援の主な成果



136世帯 887名
生活用品や衛生用品を提供。



1,424名
学習用品や石鹸などを提供。



469名
小学校に通う制服を提供。

支援現場の様子を、動画でチェック！



テラレネッサンス Youtube

検索

<https://www.youtube.com/user/yoshiTerra/videos>

**暮らしに必要な、
最低限を満たす**

昨年の南スーダンの紛争により難民が急増し、隣国のウガンダに逃れた難民は100万人を超えました。(2017年11月現在)。難民の方々は、援助機関から食糧配布を受けていますが収入がなく、必要な生活物資を手に入れることが困難です。なかでも「特別な支援が必要な人々」と呼ばれる、シングルマザーや障がい者、とりわけ子どもたちは、特に厳しい状況に置かれています。

そのような状況で、私たちは日本の皆さまからのご支援を受け、2017年8月から、ウガンダ北部の難民居住区で、緊急支援を始めることができました。衣食住をはじめ、医療・教育など、難民の方々が人間として基本的な生活を営むうえで、必要最低限のニーズを満たせるような支援を届けています。

これまで、136世帯887名に、生活物資を支援しました。また居住区内の小学校と中等学校の生徒1424名にペンやノート、公衆衛生のための石鹸等を提供し、小学生469名に制服を届けました。

居住区で生活する難民のニーズは多様です。そのため世帯ごとに事前調査を行い、何が必要とされているか把握します。水を汲むポリタンク、マラリアを防ぐ蚊帳、食器類、下着、また健康を保つための食料など様々です。そのうえで、個々のニーズに合わせたオーダーメイド型の支援を行っています。このようにきめ細やかな支援を行うことができるのは、過去10年に渡りアフリカで活動してきた、私たちの強みだと実感しています。

**生きるチカラの
たくましさに触れて**

難民の方々は、南スーダンから逃れる際に家族を殺害され、離れ離れになったり、また辿り着いた居住区でも厳しい生活を送っています。ですが、そのような状況にも関わらず、難民の方々は自分たちで家を建て、家の周りで畑を耕し、食糧に困っている家庭があればそれを融通したり、親を亡くした子どもたちへのことは、近所の大人と一緒に助けるという姿を見てきました。いま私は、支援の現場で、彼女たちから感じる人間性や知恵、生きるチカラのたくましさに触れ、尊敬の気持ちに溢れています。私たちが、日本の皆さまと一緒にやっている支援も、このような「生きるチカラ」があってこそ、生きてくるのだと感じています。



製品だけでなく、刺し子を体験する価値

東日本大震災の復興支援活動として、岩手県大槌町ではじめた「大槌復興刺し子プロジェクト」。7年目となる今年、新たな商品を開発しました。その名も、「みやびふきんキット」。

刺し子の花ふきんは、晒のふきんに刺し子をすることで、布を丈夫にし、大切に使えるようにしたもの。昔は、女の子が一番初めに覚える針しごとだったそうです。また、お母さんがお嫁に

大槌刺し子便り

活動レポート

大槌復興刺し子プロジェクトマネージャー 吉田真衣

行く娘に持たせる花嫁道具の一つでもありました。華やかさや上品さを表現したいという想いから、商品名を「みやびふきん」と命名。かねてより要望の多かった、自分でもつくることのできるキットとして商品化しました。

「刺し子をしている間は、震災のことを考えなくてすむ」。刺し子商品を制作している岩手県大槌町の女性たちの言葉です。私たちの取り組みには、被災した女性たちが刺し子商品の販売による生計向上支援のほかに、精神的な負担を軽減していける効果がありました。

針に糸をとおし縫い進めているとき、日々使っているとき、いつも穏やかに優しい気持ちになれるように。製品だけでなく、刺し子という体験を提供したい。そんな願いを込めて開発した新商品です。この機会に、ぜひお買い求めください。



商品名：みやびふきんキット～変わり花十字～
価格：3,800円（内税）全3色

大槌刺し子

検索

<https://sashiko.jp/>



活動レポート

アジア事業マネージャー 江角泰

カンボジア便り

ヤギの飼育訓練に学ぶ、支援のあり方

2017年4月から始まったプロジェクトでは、地雷被害者を含む障害者家族の生計向上支援のため、家畜飼育を推進しています。現地で提携しているCRDNASEのスタッフと一緒に、ヤギの飼育訓練を実施。ヤギの飼育に必要なもの、食べ物、病気の治療法、予防法などを丁寧に伝えました。

訓練では、合間に必ず村人に質問し、考えてもらう時間をとります。「訓練に期待することは何か」「ヤギを飼うために必要なものは何か」。私たちから一方的に教えるのではなく、村人自身に考えてもらうことが重要だと考えています。

2日間にわたる訓練のあと、ヤギを飼い始めた村人たち。実際に飼っていると、病気など、

いろいろなトラブルがあります。一緒に訓練を実施したスタッフからは「村人から夜中に電話がかかってくることもある。勤務時間ではないけど、プロジェクトを成功させるためにも柔軟に動かないとね」と、頼もしい言葉もありました。

このプロジェクトは約1000家族を対象としているため、ある程度決まった支援の仕方があります。けれども、そこにはそれぞれ異なる状況や、暮らしがあるので、できる限り一人ひとりに寄り添うようなオーダーメイド型の支援が必要です。息の長い取り組みですが、これからも、きめ細やかなサポートを続けていきたいと思っています。



啓発便り

五感で感じる
スタディツアー

8月初旬、カンボジアにてスタディツアーを開催しました。当会活動地であるロカブツス村や地雷原、ポル・ポト派による虐殺が行われたプノン・サンパウ、孤児院、世界遺産アンコールワットなどを訪問。参加者は、最年少19歳から、最高齢59歳まで。様々な興味関心、性格を持ったメンバーで、終始楽しく学びていっばいの時間となりました。

ある日、参加者の方から「テラルネッサンスの支援は、自立のための、厳しいけど優しい支援なんですネ」という感想をいただきました。

私たちの支援活動では、1から10まで手取り足取り技術訓練を教えたり、単にお金やモノを渡すことはしていません。カンボジアにおける私たち外部の者の役割は、村人の一人ひとりが本来持っている力を発揮できる環境を整えることだと考えてい

るからです。もちろん、こちらからアドバイスをすることが必要なときもありますが、それと同じぐらい、村人自身が、自分の中にある力や、村にある資源に気づき、それを発揮し活かせるようになるまで、辛抱強く待つことも重要です。

日本で教員をされている参加者の方は、「ここで感じたことを生徒にも伝えていきたい」と語ってくれました。



トピック・その1

テラルネ公式LINE@ができました!

イベントや講演、各種キャンペーンなどのお知らせを随時配信しています。また人気のオリジナルスタンプも販売中(めぐるアニマルで検索)。右のQRコードから、お友だち登録してください!



LINE@

オリジナルスタンプも販売中!

めぐるアニマル

検索

トピック・その2

その書き損じハガキ、お送りください!

年賀状で書き損じたハガキや、未使用の使わなくなったハガキを、テラルネ事務局までお送りください。住所は裏表紙に記載してあります。換金したお金は、アフリカやアジアなど、テラルネの活動資金に充てさせていただきます。詳しくは、ホームページをご覧ください。

テラルネ事務局 ハガキ

検索



テラルネなひとびと

スタッフ編

延岡 由規 Yuki Nobuoka

アジア事業 サブマネージャー



カンボジアからこんにちは!今年の4月に職員となり、カンボジア事務所に駐在している延岡由規です。私が今の道に進む最初のきっかけとなったのは小学3年生の頃。幼稚園の年長から始めたサッカーを通じて児童労働という問題を知り、世界を平和にしたいという想いを抱くようになりました。

現場ではプロジェクトの実施・管理はもちろんですが、趣味として写真をたくさん撮っています。コーヒ一片手に、平日に撮りためた写真を眺めるのが休日の楽しみです。パソコンの画面に映るたくさんの笑顔を見て、カフェでひとり、にやにやしています(笑)

偉大なるマザー・テレサさんの名言に、このようなものがあります。

“Peace begins with a smile.”「平和は微笑みから始まります」。私にとっての世界平和にも「笑顔」という要素が欠かせません。「笑顔で笑顔をつくる」を体現すべく、あれこれ考えながら日々活動をしています。SNSでも写真を公開していますので、辛いことがあったら私の写真を見に来てください!近いうちに何かしらの形にまとめて、皆様にお届けしたいと画策中です!



ファンクラブ編

伊藤 奈美子さん

会社員



私自身、支援しているという気持ちではなく、取り組みに共感していて、一緒にやっている感覚でいます。この感覚を、どんな風に表現したら良いのかは分かりませんが、そのような想いを抱いています。また、普通なら子ども兵の現状などを知って、その現状や知らなかった自分に対して怒りを向けてしまうことがあります。テラルネはあらゆる現状に対して、怒りを向けず、それを情熱に変えていく姿勢が素晴らしいと思っています。

ファンクラブ会員、募集中!

1口1,000円(毎月)から、活動を応援できる「ファンクラブ会員」。情報の満載の活動レポートや、海外からのポストカードなどをお届けしています。お申し込みはホームページ、またはお電話でも受付中。すでにファンクラブ会員の場合は金額変更も可能です。お気軽にお問い合わせください。

テラルネッサンス ファンクラブ

検索

電話 075-741-8786 (月-土 10時-18時)





世界の扉絵.01

サムロン・チェイ村で撮影した1枚。写っている2人に血縁関係があるのかどうか。正直のところ、わからない。カンボジアの村に行くと、いつも気づかされる。「家族」という言葉の懐の深さに。いくらお金を持っていても買うことのできない、血のつながりを超えた「愛」があるということに。



アジア事業
サブマネージャー
延岡由規

Instagram: [yuki_nobuoka](#)

新装版ニュースレター 「結晶母」をお届けします

テラ・ルネッサンス設立以来、毎年発行してきた「結晶母」(けっしょうも)を、5年ぶりにリニューアルしました。結晶母とは、結晶ができるとき最初にうまれる結晶のことです。結晶母の周りに、同じような形をした元素が集まり、ひとつの大きな結晶をつくります。一つひとつの結晶は小さくても、結晶母を中心に集まった大きな結晶のつながりは、強くてたくましい。私たちの活動が、そんな結晶母のような存在であれたらという願いを込めて、このニュースレターを命名しました。

リニューアルのコンセプトとして、端的でありながらも、情緒的でやさしい人肌感を感じられ、深く印象に残るようなものを目指しました。また、発行頻度はこれまでの年1回から年2回へ変更。支援の成果をしっかりとご報告しながら、テラ・ルネッサンスの理念や哲学、活動の本質的な価値をお届けしていきたいと思っています。皆さまからの感想もお待ちしておりますので、これからも新装版ニュースレター「結晶母」を、どうぞよろしく願います。

パブリック・リレーションズ
チームマネージャー

小田 起世和

- 日常シリーズ・京都事務局の場合 -



話題の顔交換アプリ「SNOW」が、
京都事務局で流行中。笑いの絶えない職場です

News Letter.01 結晶母
2017年12月1日発行

発行◎ 認定NPO法人テラ・ルネッサンス
発行責任◎ 小川 真吾
企画編集◎ 小田 起世和
表紙写真◎ 延岡 由規
協力◎ 江藤 ちふみ

本書の一部または全てを複製・転載引用する際には、
予めテラ・ルネッサンス事務局までご連絡ください。

© 2017 Terra Renaissance